

中国語に入った日本語表現

— 《汉语外来词词典》を例に—

桃 井 恵 一

概 要

【キーワード】 漢語、外来語

はじめに

本稿では、中国語に逆輸入され、定着した和製漢語について概観してみようと思う。一口に和製漢語とはいうものの、その定義は非常に曖昧で、大きく分けると二つに分類される。一つは、日本で創作され中国に伝わったもの。そしてもう一つは元来中国語として存在していたが、その意味合いを大きく変え改めて中国語に採り入れられたもの。その二つがある。

以上をふまえて今回は《汉语外来词词典》(上海辞书出版社)という辞典からサンプルを抽出し、その傾向などを概観する。尚、中国では現在、IT化及びWTO加入以降様々な事象が中国国内に流入すると同時に、在外華人と呼ばれる人たちによる情報がひっきりなしに中国本土に伝わっている状態にある。今回参照した《汉语外来词词典》だけでは追いつかない事例が多くでてきていると思われる。その一例として、アルファベットを用いた表現が多く見られてきたことがある。以前は“卡拉OK”(カラオケ)を始めごく少数だったが、最近ひっきりなしに中国語に入ってきている。ただこれらの事例については紙幅及び時間的な制約もあり、今後の課題としたい。

本 論

古来中国語が日本語に文字という観点から与えてきた影響については言及するまでもない程よく知られている事実である。古くより日本に、そして日本語、日本文化に取り入れられてきた中国語が脈々と今日まで伝わってきている事実ひとつ取ってみても、その力の大きさ、重要さが認識できるといえる。今日和語(やまと言葉)と漢語という形で語彙を形成している。

その中国語ではあるが、古代漢語(中国語)と現代中国語とでは文法、語法(言葉の使い方)、語彙に差異が見られるものも少なくない。

ところで、外来語という視点からこれらを考え直してみると中国の言語政策の一端が垣間見られるように思われる。従来までの中国では外国からの事象に対しては積極的に音訳、意識、またはその折衷型で語彙を取り込んできた。中国語の入門書などには、それらの分類としては、(1)音訳型、(2)音義融合型、(3)音訳+類名付加型、(4)意識型、(5)日本からの借用語と5つに大別しているものもある¹。

次に日本の場合を見ると、外来語は明治期と現代とでは趣を異にするとと言える。明治期では、福沢諭吉の作である「演説」「経済」「競争」などと、英語から輸入される言葉を逐一翻訳していた。上の例で言えば(4)意識型、もしくは(5)の範疇の「中国からの借用語」ということになろうかと思われる。「経済」という語は中国の古典の中の「経世済民」から引用されたということはよく言及されていることである。

最近では、ひっきりなしの情報の洪水に流され、また安易に置き換えられるという理由も手伝い外来語をそのままの表記にすることが多くなってきている。それらの反省から、近年国立国語研究所(国研)では「外来語」委員会を組織し、『「外来語」言い換え提案— 分かりにくい外来語を分かりやすくするための言葉遣いの工夫 —』という成果を生み、今日までに3回にわたって『「外来語」言い換え提案』を出し、現在第4回の提案について意見を募集している段階である。

さて、話を中国語に入った日本語表現に戻すと、《汉语外来词词典》に収録されている外来語の総数は10,272例である。その中から日本から来た語は861例、わずか8.38%である。そしてこの861例中、純粹に日本の事象を表す日本語源を含む日本語から派生した語彙と中国語の古典に語源を求めることができる語彙とに大別できる。

〈表1〉

見出し	総項目数	該当数	比較(%)	日本語源	古代漢語
A	601	4	0.66	4	0
B	912	34	3.7	26	8
C	99	44	44	40	4
D	551	58	10.5	52	6
E	108	1	0.9	1	0
F	383	47	12.2	31	16
G	487	62	12.7	53	9
H	434	24	5.5	23	1

¹『中国語ハンドブック』相原茂 編著

J	549	99	18	80	19
K	653	16	2.4	11	5
L	584	40	6.8	29	11
M	804	29	3.6	25	4
N	321	15	4.6	13	2
O	25	1	4	0	1
P	447	11	2.4	9	2
Q	220	31	4	22	9
R	61	18	29	17	1
S	1102	72	6.5	50	22
T	505	29	5.7	23	6
W	382	26	6.8	15	11
X	331	60	18	45	15
Y	564	64	11.3	43	21
Z	149	76	51	59	17
総計	10272	861		671	190
		8.38%		77.90%	22.10%

表1で見たように、外来語の中に占める日本語語源の単語は8.38%に留まっている。それら861例の中から日本語を語源としているものと、中国の古典に出典を求めることができるものとの分けてみると、日本語語源は671例（77.9%）、中国古典語源は190例（22.1%）となり、実に圧倒的に日本語語源から来る語が多いことが分かる。

このことから、中国語では日本語語源の単語に関して言えばきわめて直接的に日本語から語彙を受容していることが言える。

日本語と中国語の関係において語彙の異同関係、及びその翻訳方法にもいろいろあるが、ここでは以下のような方法があるのを紹介する²。

²《現代日語翻译技巧》(1983)

- (1)日中語彙で完全に同じ
- (2)日中語彙で字は同じだが意味が異なる
- (3)日中語彙で簡体字を採用しているため字が異なる
- (4)薬草を含めた動植物名の訳法
- (5)中国語語彙では独自に訳語を製造する方法
- (6)日中単語でそれぞれ語を入れ替える方法
- (7)外来語の語彙翻訳法
- (8)日本語固有の語彙の翻訳法
- (9)多義的語彙の組み合わせで翻訳する方法
- (10)同形異義語の例
- (11)単語が同等の価値を有しない場合
- (12)日本語の中で、作者が自分で作り出したもの
- (13)日本語で常用の二重否定が重要な肯定を表す場合
- (14)日本語では実際に意味を持たない語義の語の場合

以上の(1)~(14)は一般の語彙について当てはまるものと言うことが出来る。本稿で特に関係のある(7)の「外来語の語彙翻訳法」について見てみると、その翻訳法は以下に示すとおり3つに分類している。(1)音訳、(2)意識、(3)習慣訳法。これら3つの翻訳法の具体的例としては、以下のものがあげられる。

- (1)音訳の例：マルクス (马克思)、レーニン (列宁)、ローズベルト (罗斯福) 等
- (2)意識の例：ニュース (新闻)、プロレタリア (无产阶级)
- (3)習慣訳法：フランス (法国)、アメリカ (美国)

しかしここでいう外来語は、日本語の中で言うところの「カタカナ語」という部類のものいえるのではないか。その意味においても、中国語における外来語の受容方法として、音訳、意識、習慣訳というのがあるのはうなずける。

先の《汉语外来词词典》について、日本語を語源にしている外来語について、その出自をみてみた。意外に中国語の古典を原点に求めることができる語彙が少ないように見受けられる。このことは、同音、同字だとしても、意味の転用、借用があったため、それらの作業に手間がかかるため作業が進まなかったのではないかと思われる。ただ、理由はそれだけではなく、明治期に日本において漢語が増えた大きな理由は、それらの語が必要とされる土壌があり、そのころの語彙では十分に網羅できないため新たに言葉を創出しなければならなかった必要があったのだろうと思われる。

例えば政治、法律、心理などでの学問体系について当てはまる。そして、多くの漢語がそれらの新語に充てられた理由については、田島（2003）にも言及されているように、翻訳に当たった人々の学問体系が古来の漢籍から得た知識を基にしていたため、古代中国語から借用し、またはそれを基にして独自に作り出したと考えられる。

ま と め

以前は日本語と中国語について、同文同種という言葉がよく使われていた。確かに同様の漢字を用い、意味・用法についても共通しているところが多いとついそのように考え勝ちになる。明治期に多くの知識人が漢籍から知識を導入し日本の近代化のために語彙を導入、翻訳した際にはこれら共通している基盤がベースになっていたと思われる。しかしながら、両言語について見てみると、文法はもとより語彙についても意味や用法において異なる点が多いと指摘できる。そして、中国から輸入された日本語、日本語から輸入された中国語も概念を導入する点ではそれらの事象は共通なものだったかもしれないが、時代と共にその背景の文化・価値観の相違から、お互いに異なった道を歩み出すことが出てきた。

今回は中国で出版された外来語辞典を基に、どれくらいの外来語が中国語の中に定着したかを見てみたが、現実社会では社会の急速な変化、発展により辞書では収録しきれない新語が多数出現しているものと思われる。今後は、継続的に分類、分析していく必要があると思われる。そして、振り返って日本語では新語がどのように採り入れられているのか。安易に外来語としてカタカナ語になっていないかなどについて今後の課題としたい。

参考文献

- 相原茂 編 (1996) 『中国語ハンドブック』 大修館書店
田島優 (2003) 「明治時代の漢語」『日本語学』 明治書院
田野村忠温 (2003) 「中国の日本語」『日本語学』 明治書院
田中牧郎 (2005) 「外来語の言い換えと規範」『日本語学』 明治書院
藤堂/香坂 (1974) 『漢字とその文化圏』 光生館
刘/高/麦/史 (1984) 《汉语外来词词典》 上海辞书出版社
靳怀建 等 (1983) 《现代日语翻译技巧》 海洋出版社
- 王彬彬 (2003) 〈现代汉语中的日语‘外来语’问题〉《上海文学》第二辑「守望·魂」
<http://www.cnread.net/cnread1/sgsw/h/hexiongfei/swlh/002.htm>